機動戦士ガンダムOO　IF　～story　zero～

鴉～夢の運び屋～

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
機動戦士ガンダムＯＯ　ＩＦ　～ｓｔｏｒｙ　ｚｅｒｏ～

【Ｎコード】
Ｎ７７３８Ｐ

【作者名】
鴉～夢の運び屋～

【あらすじ】
ガンダムＯＯの世界観で描いて行くＣＢとは関係が無さそうで有ったりする物語。このお話は、前後篇に隔てられた前篇に値する物語です。連載小説で活躍させる主人公［マハール・ロゥ］の、超兵に調整させられる前のお話です。少し短いですが、お楽しみ頂ければと思います。

（前書き）

少しばかり短いですが、どうかご容赦ください。

西暦２３０７年、地球は枯渇した渇きを潤わせるために戦争を繰り返していた。そんな中、一つの武装組織がその戦乱を止めるべく表舞台に姿を現した。彼らはＣＢ（ソレスタル・ビーイング）と言う、戦争を根絶する為の、何処にも属さない武装組織だと言う。彼らのしたい事とは、一体どう言った結果をもたらし、また、今よりも良い未来を作りだす事が果たしてできるのだろうか。

「兄さん！これ見てよ♪僕が作ったんだよ？凄いでしょ♪」
先程の説明から1年ほど昔へ遡った頃、一人の幼い少年が自分の兄にミサンガをプレゼントして上げていた。彼の名前は［マハール・ロゥ］と言うロシア人である。彼は兄である［デイシャ・ロゥ］と共に平原の蒼い景色を眺めていた。

「おっ？見せて見ろ♪上手いこと出来てるじゃないか。マハールは手先が器用だなぁ♪」
「やったぁ♪兄さんに褒められた♪」
二人は、両親こそ居ないものの頑張って生きていた。生活にもそれほど困ってもいなければ、生死の境を彷徨う様な場所で働いている訳でも無い。そんな兄弟円満な二人を引き裂く出来事は、刻一刻と迫って来ていた。

「少し冷えて来たな。中に入ろうか。マハール？どうした？」
「兄さん？あの光ってるのって、何？」
暫くの間草原で楽しく笑い合っていた二人だったが、肌寒い風が当たりだすようになったのを気に掛けたデイシャが、マハールを家の中へ入れようとした。しかし、マハールは家に入る直前に奇妙な、青と白が主体の見た目白兵戦型のロボットを視界に捉えたのでデイ

シャに聞いてみた。

「さぁ、人革連以外の機体だったら大騒ぎなんだけど、そう言う雰囲気じゃないし、多分新開発のロボットとかなのかも。」

「ふぅん。カッコいいなぁ♪」

元々、ロボットに関してそこまで詳しくなかったデイシャは、少ない知識で何とかマハールに分かって貰おうと、マハールに取ってまだ難しい部類に入るであろう言葉を使って説明をしてみたりした。結果は上々のようで、マハールは少し困った顔をして話を聞き流すと、飛んで行ってもう居ないロボットのフォルムを思い出して感傷に浸っていた。

「さぁ、あったかいシチューが出来たよ。今日と明日はこれだけで大丈夫なくらい作ってあるからいっぱいおかわりしろよ？」

「はぁい♪モグモグ・・・美味しいっ♪」

先程のロボットの事から少し経って、外が大分吹雪いてきた頃になってデイシャは出来あがったクリームシチューを二人分の皿に盛って、テーブルに置いた。マハールは、兄が座って食べる前に既に食事を始めていた。その味は美味で、マハールの表情は明るくなっていた。そんな弟の姿を見たデイシャも、同じようにモグモグと食事を始めた。それから暫く後、デイシャは終わった後の食器の片付けに入っていた。マハールは既に布団で眠りに着いている。

「マハール・・・」

食器を片づけながら、弟の事を想っていたデイシャは最近の自分の行動の不思議さに目を向けて見た。先日は、マハールに冷たくしていたし、両親がマハールを可愛がっていた頃には自分が悪戯をして両親を振り向かせようとしていた時期もあった。そう考えると、兄弟とは儚くも尊大な物なのだと、デイシャは再認識させられた。

「さて、家の片付けも済んだし俺も布団に・・（バタン！）・・！」
家の片付けを全て終わらせ、吹雪の収まって来た窓の外を見ながらデイシャはマハールの眠っている部屋へと向かおうとした。しかし、その時に自宅の扉が蹴破られる音を聞いた為にデイシャはドアノブを握るのを止めた。

「（何なんだ一体。こんな時間に客が来るにしても乱暴な・・（パンッ）・・）」
「よし、弟の方を探せ！こんな時間だ。きっと寝ているだろう。」
階段を降りながら客人の事を考えていたデイシャは、早足で客人の出迎えをしようとした。勿論、乱暴な客人に、早々にお帰り頂くためだ。しかし、デイシャの読みは合っているようで間違っていた。デイシャは、階段から身を乗り出して客人の姿を伺おうとしたのだが、そこで肩に銃弾を受けて倒れた。そしてデイシャ達の中に入って来た軍人たちは大急ぎで誰かを探し始めた。

「中尉殿！マハール・ロゥを発見、薬の投与後に適合反応あり。間違いなく脳量子波の潜在使用者です。」
「よし、車両に積載次第順次発進、我々は基地へ戻るぞ。」
「ま・・・て・・・」
特殊服を着た隊員の一人が、もう一人の中年男性に話しかけている。その言葉を、デイシャは朦朧とした意識の中で一つ一つ浮かべて思い出そうとしたが、どれもこれも聞いた事の無い言葉だった為に意味が分からなかった。その内、隊員の一人がマハールを抱えて階段を下りて来た。マハールは気持ち良さそうに眠ったままだ。起こそうにも体が言う事を聞かない。暫くすると、全員の軍兵達が階段から下りて来た。そのまま撤退して行っていたが、最後の一人である司令官らしき男の裾に捕まる事の出来たデイシャは、殆んど消えかかっている意識の中で必死にその司令官を止めようとした。

「お前に用は無い！そこで一生寝て居ろ！」
男の放った弾丸は、見事にデイシャの額を貫いた。そして、呼吸一つしなくなったデイシャを余所に、男は車に乗るとその場を去って行った。それから数時間後、通りかかった住民が殺されたデイシャを確認。警察に連絡を取って世間にデイシャの訃報が伝えられた。しかし、未だにマハールは部屋から見つかっておらず、遂には４日後に捜索が打ち切られてしまった。その理由とは、同時期に起こったテロが主な原因とされた。そのテロ組織の生き残りがデイシャを射殺、その後マハールを人質として誘拐するも使用価値が無いと判断されて射殺。これで警察側は辻褄が合うとして捜索を一からすべてを取りやめたと言う。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7738p/

機動戦士ガンダムOO　IF　～story　zero～

2010年12月31日22時47分発行